

# 2013年 IAF 第 27 回年次総会 ILAC 第 17 回年次総会 及び関連会議報告

2013年 11月 5日  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構  
認定センター (IAJapan)

## 1. 開催日時・場所

2013年 10月 16～25日

於：韓国・ソウル市ロッテホテルソウル、韓国 KATS、KOLAS、KAS、KAB による共催

## 2. 全体

この会合では、国際認定機関フォーラム (IAF) 及び国際試験所認定協力機構 (ILAC) の各年次総会、合同総会とともに、約 40 の関連委員会等が開催され、主立った認定機関、各地域協力組織及び ISO/CASCO、IECEE、UNIDO、BIPM、OIML 等の国際機関が参加するのみならず、認定の利害関係者として適合性評価機関 (CAB : 認証機関、試験所等) も参加する大規模な会合となっている。日本からは IAJapan から藤間所長以下 7 名の他、JAB8 名、VLAC3 名、JIPDEC2 名、JACB5 名等の参加があり、全体で約 300 名を超えるであろう参加があった。

## 3. 総会関連報告

### a) 次回以降の総会等会議の開催時期について

2014 年年次総会 10月 8-17日 タイ・バンコク開催

2015 年年次総会 イタリア Accredia による開催が提案され、了承された。

2016 年年次総会 インド NABL 及び NABCB によるニューデリー開催が提案され、了承された。

### b) 各委員会報告関係

10月 24日の合同総会にて、IAF、ILAC 及び地域機関内の活動の統合化に関するタスクフォースグループ幹事から報告があったが、各機関から意見の応酬が長時間に亘っており、様々な会合での不満をここでガス抜きした感があった。

ILAC では、LC (試験所委員会) からの「ILAC は、可能な限り実効的に ISO/IEC 17025 の包括的改正が行われるよう ISO/CASCO に新規作業項目の設定を要請すべき」との提案について、反対投票が多数出た結果、その可否について、11月 1日開始の 90 日投票 (その間において、各機関は顧客 (試験所等) の要望を確認する。1 機関 1 票) を行うことを採択した。

各委員会の報告は後出参照。

### c) メンバーシップ、他機関との連携

IAF においては、アフリカ地域の認定機関協力組織 (AFRAC) 及びアラブ地域の認定機関協力組織 (ARAC) が地域協力グループとして承認された。また、ILAC においても ARAC が地域協力組織として承認された旨の報告があった。

IAF ではケニア、スリランカ、カザフスタン等 5 機関が新たに加盟、一方で 2 機関が脱退したことが報告された。

ILAC では 7 機関が準会員として加盟した (ロシア、ベトナムに 2 つめの認定機関が参入)。

ILAC は、WADA (国際アンチドーピング協会) との連携強化を表明しており、各国の WADA 認定試験所審査に WADA 制度の教育を受けた各国認定機関職員を派遣して協力関係を築いている。

また、IEC/IAF/ILAC は ISO/IEC Guide65 から ISO/IEC 17065 への移行、電気分野での共通理解促進、合同審査方針等の策定のための IEC/IAF/ILAC 運営委員会を定期的に開

催し、また、合同パイロット審査を開始している旨報告があった。次期議長には ILAC 議長 Unger 氏が就任し、次回会合は来年 11 月の IEC 東京総会で開催するとのことであった。

#### d) 理事会役員、各委員会議長の改選等について

IAF では、中小経済国選出理事についてタイ NSC Ekanit 氏の任期切れに伴い、後任にベトナム BoA の Vu 氏が選出された。ILAC では特に選挙はなかった。

なお、今回は、長年に亘って国際的に活躍されてきた方々が今年限りで多数引退する予定である旨紹介があった。

#### e) 予算、組織変更等

2013 年決算及び 2014 年予算は IAF、ILAC とも特に異論はなく承認された。

ILAC では来期からの年会費計算構成（3 年ごとの UN スケールの見直し、検査機関認定数を考慮した係数変更、認定数上限引き上げ(800→1000)、準会員会費の低減・定額化、関連機関と利害関係者（定額）の会費値上げ）の変更が承認された。

### 4. 委員会関連報告

#### 4.1 IAF 専門委員会(TC)及び配下のタスクフォース (TF)・作業グループ (WG) 会合

審査員・専門家能力 TF では、審査員の能力要求事項に関する必須文書案の再構成が求められ、次回専門委員会に再度文書案が提案されるという計画変更となった。各認定機関への影響が大きい文書であるため、慎重な検討が求められたことによる。

製品認証 WG では、各認定機関が新たな認定基準 ISO/IEC 17065 での審査作業を本格的に開始し、一方、マネジメントシステム認証ですでに大きな問題となっている認定機関間の審査及び認証機関への追加要求上の不整合があることを勘案し、認定機関間の経験等共有のための準備、新たなガイダンス文書作成の調査活動の準備にその活動の軸足を移すことが確認された。IAFMLA マークを制度上製品認証分野の認証書に添付できないことについて、再検討が提起され、MLA 評議会への報告後、今後の課題として共有した。

IAF 専門委員会では、各 WG 及び TF からの報告に基づき、要員認証、食品安全、情報セキュリティマネジメントシステム認証の相互承認のための準備が整いつつある一方で、ISO/IEC 17021 及び ISO 9000 規格の全面改正に備えた準備活動を強化することを確認した。認定機関間の不整合等共通課題への対応のため、4 つの TF を設置することが承認され、WG、TF が 30 を超えたが、3 日間での会合スケジューリングが困難、各認定機関ですべての活動をフォローすることが限界を超えることから、包括的に重要案件の事前調整を行う「認定機関情報交換グループ」を設置することとし、これは総会で承認された。また、WG 等作業を進めるため、各認定機関の専門委員会代表者は最低 1 つ以上の WG 等に貢献することを義務づける等の制度改革案審議を加速化させることとした。

#### 4.2 ILAC 技術委員会(AIC)

今年初めにトレーサビリティ方針(P10)及び校正における不確かさ方針(P14)を改正・発行したところである。配下の WG は 12 あるが全てが活発に活動している訳ではなく、IAJapan としては校正とトレーサビリティに関する WG2、標準物質に関する WG3、サンプリングに関する WG5 の動向に注視しつつ参加した。

WG2 では、試験における不確かさに関するポリシー文書の将来的な作成について論じられた。試験分野毎に報告書への顧客要求が様々である、試験分野における不確かさ評価が発展途上段階であるといった意見が挙げられ、今後は WG コンビナーが作成した方針案を基に小グループディスカッションを行い、ワークショップで意見を集約していきたいとのことであった。

WG3 については、現在コンビナーが空席になっており、RMP 審査のためのガイダンス文書作成作業が停止している。今後地域機関 (APLAC、EA、IAAC) の RMP 認定状況を注視しながら方向性を定めていきたいとの報告がなされ、APLAC からは来月開催予定のワークショップについて、IAAC からは質の高い適用文書を作成し運用していること、EA からは来年 RMP・技能試験提供者認定にかかる審査員トレーニングを予定している、との報告が

なされた。会場からは早急の ILAC-MRA 実現を望む意見が挙げられた。また ISO-REMCO が ISO Guide34 がガイドのままであることは問題であるとし、CASCO と同様のロジックでのスタンダード化を要求しているとの報告があった。

#### 4.3 ILAC 認定委員会(ARC)

4つのWG(方針文書の維持、MRA ユーザグループ対応、越境認定、非常事態マネジメント)からの報告があった。米国 NRC(原子力規制委員会)が ILAC/MRA を活用しようとする動きがあり、NRC から ARC にいくつかの要請が出されているとのことであった。

#### 4.4 ILAC マーケティング広報委員会(MCC)及び IAF 同委員会(CMC)

最近の活動としてはオンラインニューズレターの発行、各種 PR パンフレット、規制当局との関係構築の手引き等の作成があり、来年 WEB の改良(SEO 対策、ファイルシェア、電子投票・オンラインコメントの導入、モバイル対応)を予定していることが報告された。

### 5. MRA/MLA 評議会関連報告

IAF では、昨年 PAC 評価を受けた IAJapan の製品認証機関認定の MLA 署名が承認され(発効は 9 月 20 日)、他の 6 機関(3 機関は製品認証、3 機関はマネジメントシステム認証)とともに、24 日に署名式が行われた。また、Global G.A.P を ISO/IEC Guide65/17065 製品認証機関認定の MLA サブスコープとして入れることについて 18 機関が棄権であったが承認された。(Global G.A.P.分野のみ、IAFMLA マークを認証書に付することができる。なお、この MLA サブスコープの拡大は MLA 評議会の審議を経ない総会決議であった。)

ILAC では、17 機関(検査機関 12 機関、臨床検査室 3 機関、ISO/IEC 17025 新規 4 機関)が新たに承認された。なお、今回の検査機関認定の相互承認には製品認証機関の認定機関である 2 機関が新規参入している。

### 6. 今後の主な予定

次回総会までの関連委員会等の中間会合として、2 月 5-7 日に ILAC/MCC&IAF/CMC の開催を日本(京都)で受け入れ、4 月 7-8 日に ILAC/AIC(オスロ)が、4 月 23-28 日に IAF 中間会合(フランクフルト)が開催されるが、ILAC/ARC は開催しないことが決まっている。

<IAJapan の IAF/MLA 署名式の様子>

IAF 議長の Randy Dougherty 氏(左)、認定センター藤間所長(中央)と韓国産業通商資源省 副大臣の Kim Jae-hong 氏(右)



以 上